

《資料から得た根拠^{こんきよ}をもとに意見文を書く 文例》

一年 組 番 氏名「

」

カタカナ語の多用を考える

ニュースや町の中で見る広告に、外国語や外来語がたくさん使われています。このような言葉を「カタカナ語」というそうです。

私も、日頃^{ひごろ}、カタカナ語をよく使います。しかし、ニュースや広告で見るカタカナ語の中には、意味のわからない言葉もあります。

例えばこのあいだ、外国人観光客の増加についてのニュースを見たとき、「インバウンド」という言葉が出てきました。初めは意味が全くわからず、ニュースの内容も理解できないでいました。そこで、一緒^{いっしょ}に見ていた兄に質問したら、「日本に観光に来る外国人のこと」だと教えてくれました。

ニュースの中では、この言葉について説明ありませんでした。この場合なら、「外国人観光客」などと言ってくれば、誰でもわかるのに、と思いました。そこで私は、カタカナ語がたくさん使われていることで困らないのか、調べてみました。

カタカナ語に関して、文化庁の「平成二十九年『国語に関する世論調査』」に二つの資料を見つけました。

資料1では、五年前の調査でも、今回の調査でも、困ることが「よくある」「たまにはある」と思っている人が、合わせて約八十パーセントいます。資料2では、「カタカナ語はわかりにくい」ことが、使用を好ましくないと感じる最大の理由です。

そこでもう一度資料1を見ると、「困ることがある」と感じる人の割合が過去の調査より五パーセントぐらい増えています。

二つの資料を比べると、共通点は「困っている」「わかりにくい」と回答した人が増えた

ことです。さらにこの点は、二つの資料とも、前回の調査から増えているものです。

私は、ニュースなどで多くのカタカナ語が使われているので、わかる人がだんだん増えるのかと思っていました。ところが、困っている人や好ましくないと感じる人が増えていることがわかり、驚おどろきました。

それはもしかしたら、新しいカタカナ語が次々と出てくるので、わかれうとしても追いつかないのかもしれませんが。あるいは、高齢化社会で、カタカナ語に慣れていない世代の人が増えているためかもしれません。

そのようなことがわかる資料は見つかりませんが、今回調べた結果から、私は、多くの人が見るニュースなどでは、カタカナ語を使わなくてもわかる言い方をしたほうがいいと考えます。